

YKK、環境負荷低減へ

YKKは、本年度から低炭素アルミを用いたファスナー製品の生産を進めている。ファッショ業界の環境意識の高まりを受けて、今年3月に住友電気工業と住友電工グループでアルミ線材などを手掛ける富山住友電工(本社〓富山県射水市、山本康夫社長)と連携して、低炭素アルミを利用することを公表。将来的に低炭素アルミだけでなく、リサイクルアルミ材料を用いた製品も開発していきたい考えだ。

将来的に全量移行図る

YKKは、ファスナー用アルミ合金線材のほぼ全量を富山住友電工から調達している。YKKの黒部事業所(富山県黒部市)でファスナーのかみ合う部分であるエレメント(務歯)部材向けに圧延加工を施し、日本をはじめ世界に点在するグループ会社へ供給している。

テナピリティレビジョンにも沿う形で、新地金製錬時の環境負荷低減の観点で協議してきた。

今回利用している低炭素アルミ地金は、再生可能エネルギーを電力源に、精錬工程における二酸化炭素(CO₂)排出量を地金1トン当たり4トン以下に抑えたものを海外から調達している。富山住友電工の製造工程で、原料のアルミ地金に対して低炭素アルミ使用量を割り当てるマスバランソ方式を採用している。

マスバランソ方式の

IMCグループのタンカロイ(本社〓福島県いわき市、木下聡社長)は、メード・イン・ジャパンの高品質な超硬工具を世界に供給する総合工具メーカーだ。今年12月には創業90周年を迎え、さらなる飛躍が期待される。同社の中核拠点であるいわ

ため、YKKのファスナー部材として国内外問わず出荷されている。低炭素アルミ由来のファスナー製品は、アルミ製の中でも生産量が限られるものの、

YKKの営業本部商品戦略部の宮田隆司商品企画推進室長は「来年度は本年度より数量を少しでも増やしていきたい」と話す。YKKでは、金属や樹脂といった素材ごと

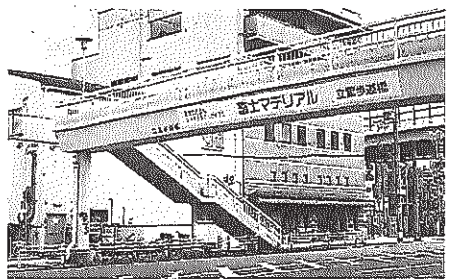
の調達を強化している。宮田氏は低炭素アルミを用いた製品展開について、「少量の生産であっても、用いる素材が環境負荷の大きい新地金に逆行するのは好ましくない」と語る。低炭素製品への移行時期に関しては未定とするものの、将来的な全量移行に意欲を示す。グローバルのアルミ産業全体によるグリーンアルミの安定供給体制

歩道橋の命名権取得

富士マテリアル 認知度向上へ

特金スクラップ問屋の富士マテリアル(本社〓大阪市浪速区、西尾一社長)はこのほど、大阪市浪速区立葉2丁目にある立葉歩道橋のネーミングライツ(命名権)を取得した。10月に発足した新会社名の「ピーアール」とも期間が12月14日から3

循環に貢献するリサイクル企業として地域への認知度アップを図る。歩道橋の新名称の標示工事は14日に行われ、歩道橋の通称名は「循環型経済へ」レオメタルのリサイクル「富士マテリアル」。契約期間は12月14日から3



社名が入った立葉歩道橋

年間。本社と大正倉庫(大阪市大正区)の中間に位置し、交通量の多い主要市道のため目につきやすい。大阪市は道路の維持管理を目的に、歩道橋のネーミングライツを自主財源とするためのパートナー企業を募集しており、同社の地域貢献の

アルミ新地金港湾在庫 (単位:トン)

	24年11月	24年10月	23年11月
横浜	138,800	147,400	141,300

銅鉱山生産 国際研究会、

国際銅研究会(ICC SG)が16日に発表した。電気銅の平均1.9%、1.7%の。アルミ

生産効率高める工具を提供

れ電気炉で焼き固める。焼結したインサートの(サート)の交換もロボ インサートの増強